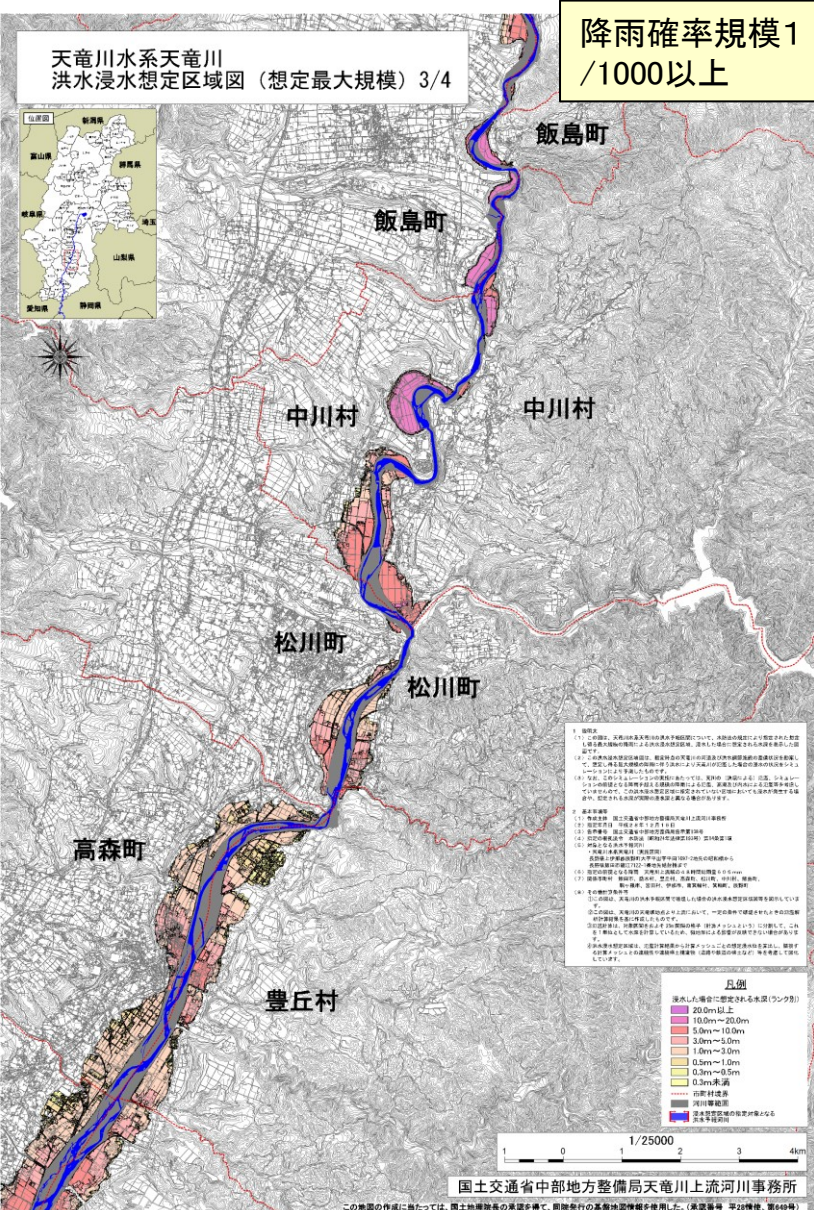


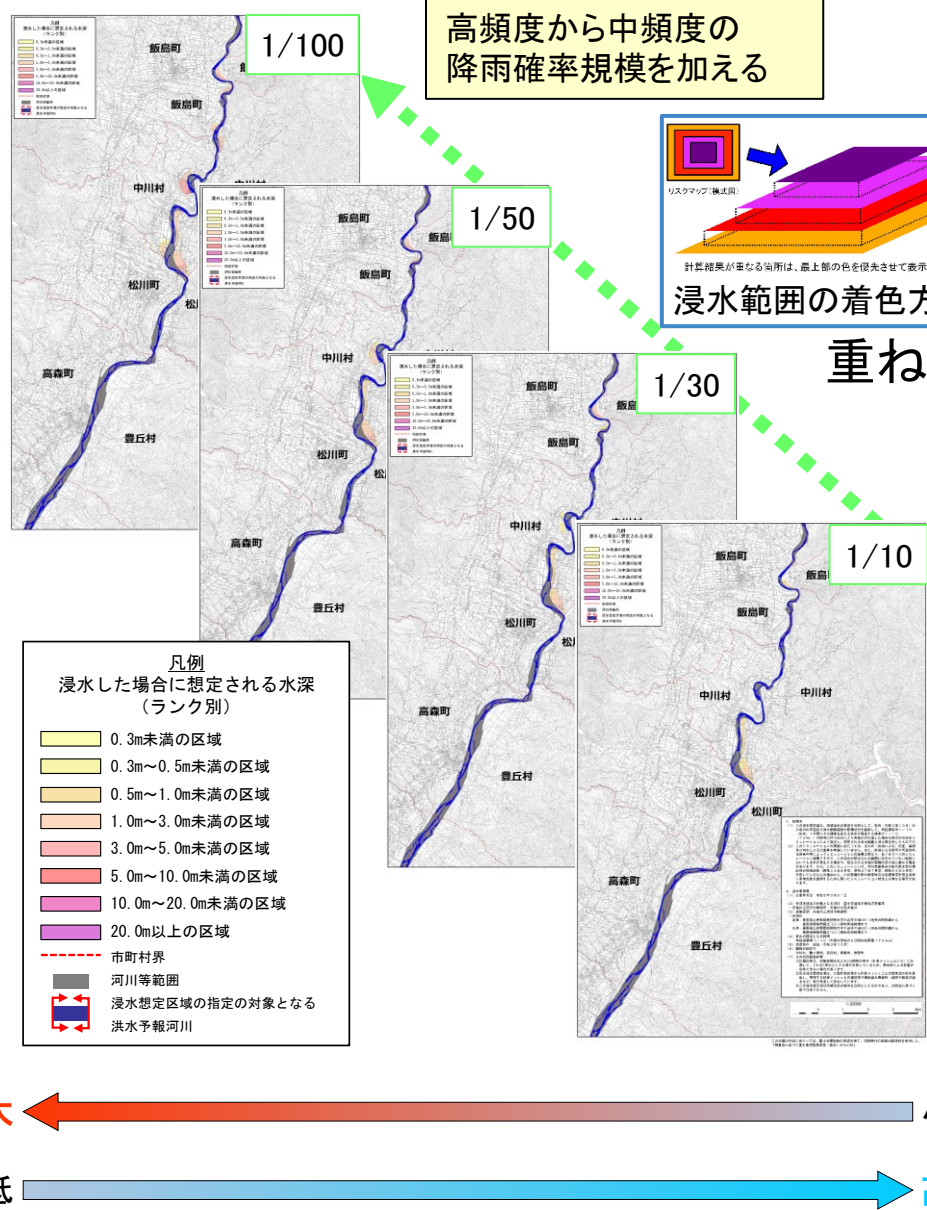
○水防法に基づき住民等の迅速かつ円滑な避難に資する水害リスク情報として、想定最大規模を対象とした「洪水浸水想定区域図」を作成、公表した。(天竜川上流:平成28年12月)

○また土地利用や住まい方の工夫の検討及び水災害リスクを踏まえた防災まちづくりの検討など、流域治水の取組を推進することを目的として、発生頻度が高い降雨規模の場合に想定される浸水範囲や浸水深を明らかにするため、国管理河川からの氾濫を対象とした「多段階の浸水想定図」及び「水害リスクマップ」を作成、公表した。(天竜川上流:令和5年3月)

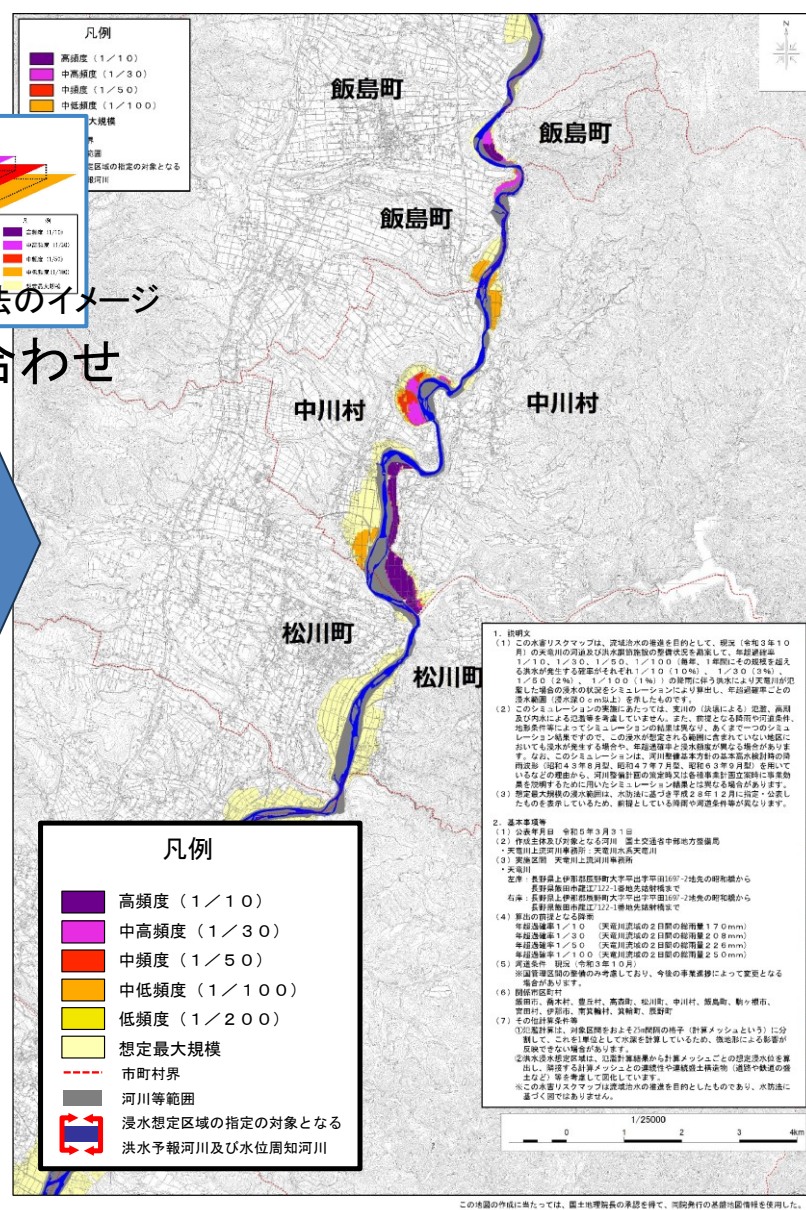
洪水浸水想定区域図



多段階の浸水想定図



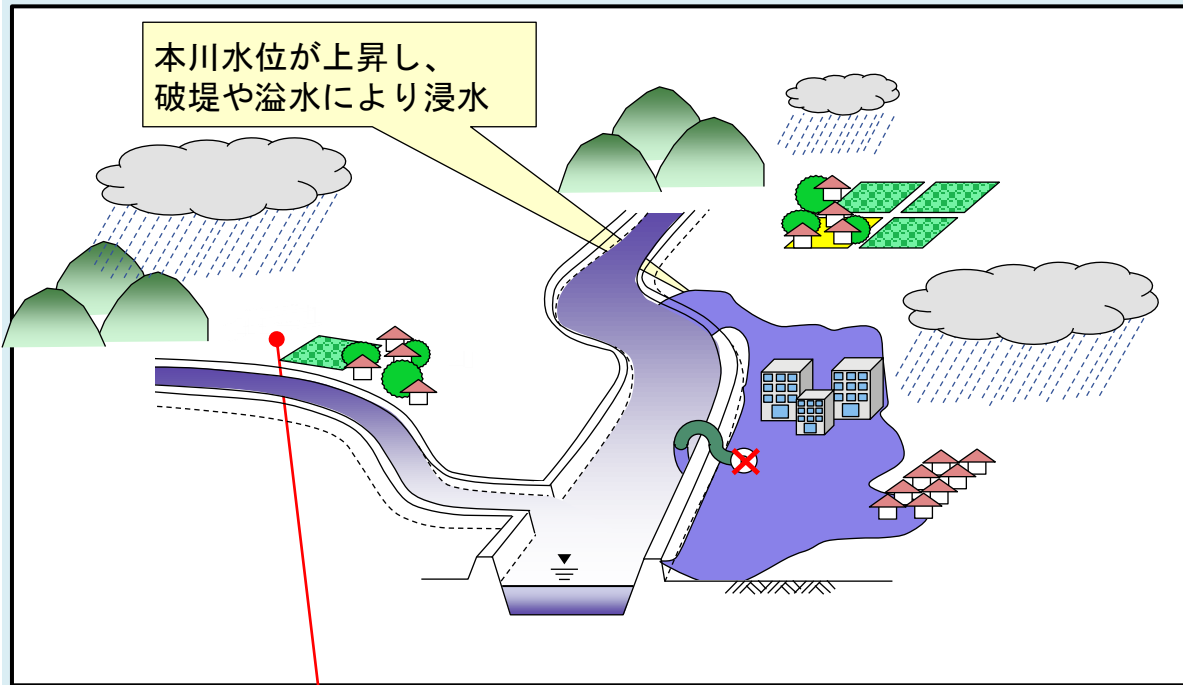
水害リスクマップ



- 一般に高頻度、中頻度確率の雨の場合、外水(本川)からの氾濫の前に内水(支川等)からの氾濫が生じるケースが多い。そのため、防災まちづくりに活かす際には、外水(本川)と内水(支川等)の浸水リスクを統合化することが重要であり、国管理河川からの氾濫だけでなく、**県管理河川**や**内水氾濫**も**表現**することが必要となる。
- これまでに提供してきた洪水浸水想定区域図や多段階の浸水想定図、水害リスクマップはすべて国管理河川からの外水氾濫のみを対象としてきたため、**県管理河川からの氾濫や内水氾濫も表現した内外水統合版の水害リスクマップ**を作成、公表した。
(天竜川上流:令和8年3月)

現状 主要河川の外水氾濫を対象とした氾濫解析イメージ

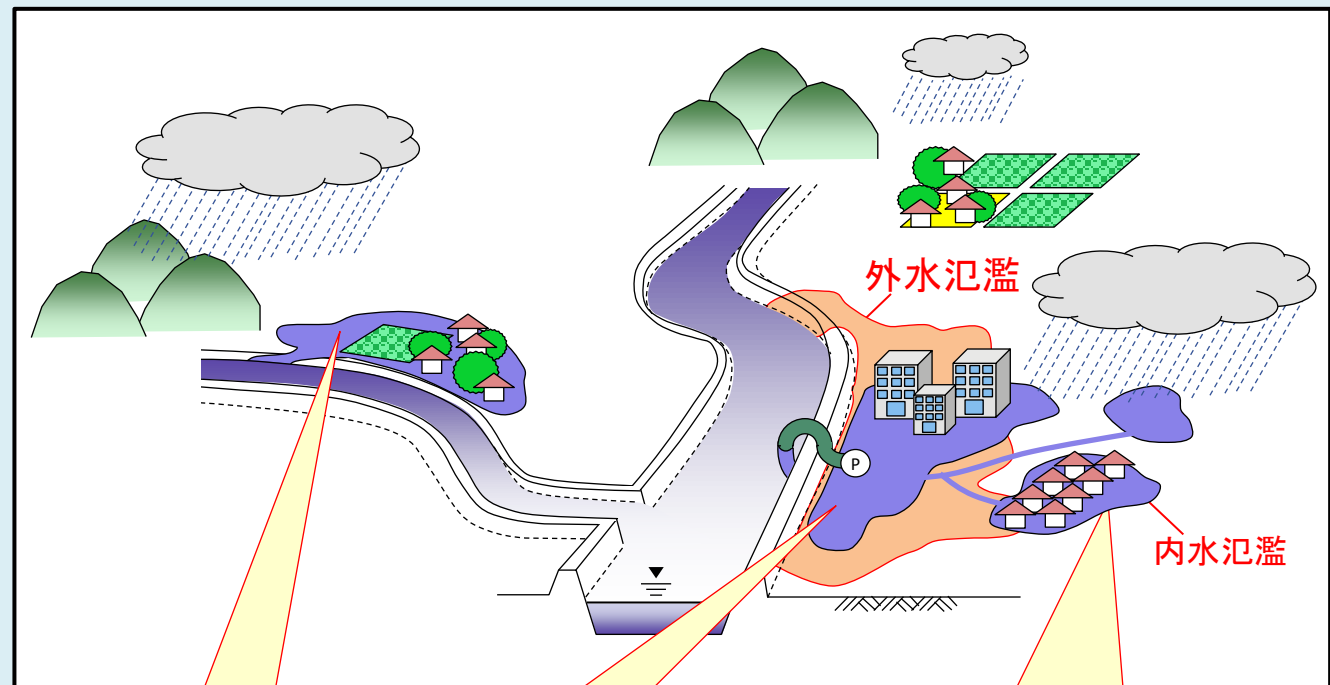
外水(本川)のみ



支川や内水氾濫(下水道などの浸水等)を考慮していないため、
氾濫による水害リスクを正しく表現できていない
⇒ 今後、このエリアに家が建つ可能性が生じる

今回 本支川・内外水一体型の氾濫解析イメージ

外水(本川・支川) + 内水(下水道等)



支川水位が上昇し、破堤や溢水により浸水
本川水位の上昇により、内水河川や排水路から排水できずに浸水
内水河川や排水路等の流域に短時間に強い雨が降ることで、排水能力を上回り浸水

⇒ 大中小河川、下水道等の浸水リスクを一体で確認可能

- 令和5年3月に公表した直轄区間のリスク情報に加えて、直轄管理区間以外からの外水氾濫と内水氾濫のリスクを検討し、これらを合成して内外水のリスクマップを作成した。
- 直轄管理区間外の河川については①主要河川、②その他河川、③下水道等それぞれに対し洪水のシナリオを設定してリスクを評価。

<用語の定義>

主要河川：水防法に基づく、**洪水予報河川および水位周知河川を標準**とする。なお、令和3年の水防法改正に基づき浸水想定区域を指定することとなった洪水予報河川および水位周知河川以外の河川も主要河川として取り扱い氾濫解析を行うことを妨げない。

その他河川：**主要河川以外の一級河川・二級河川**を標準とする。

下水道等：主要河川やその他河川以外の水路等とし、水位を計算する必要がある準用河川や普通河川、下水道、各種排水路。一次元不定流解析でモデル化する対象は**幅3m以上かつ延長100m以上**を目安とする。

■作成フロー

ステップ1 主要河川の浸水解析

- 破堤氾濫条件にて氾濫想定地点を一地点とした浸水解析を実施
- 外力として与える降雨は、外水河川ごとに設定

ステップ2 その他河川、下水道等の浸水解析

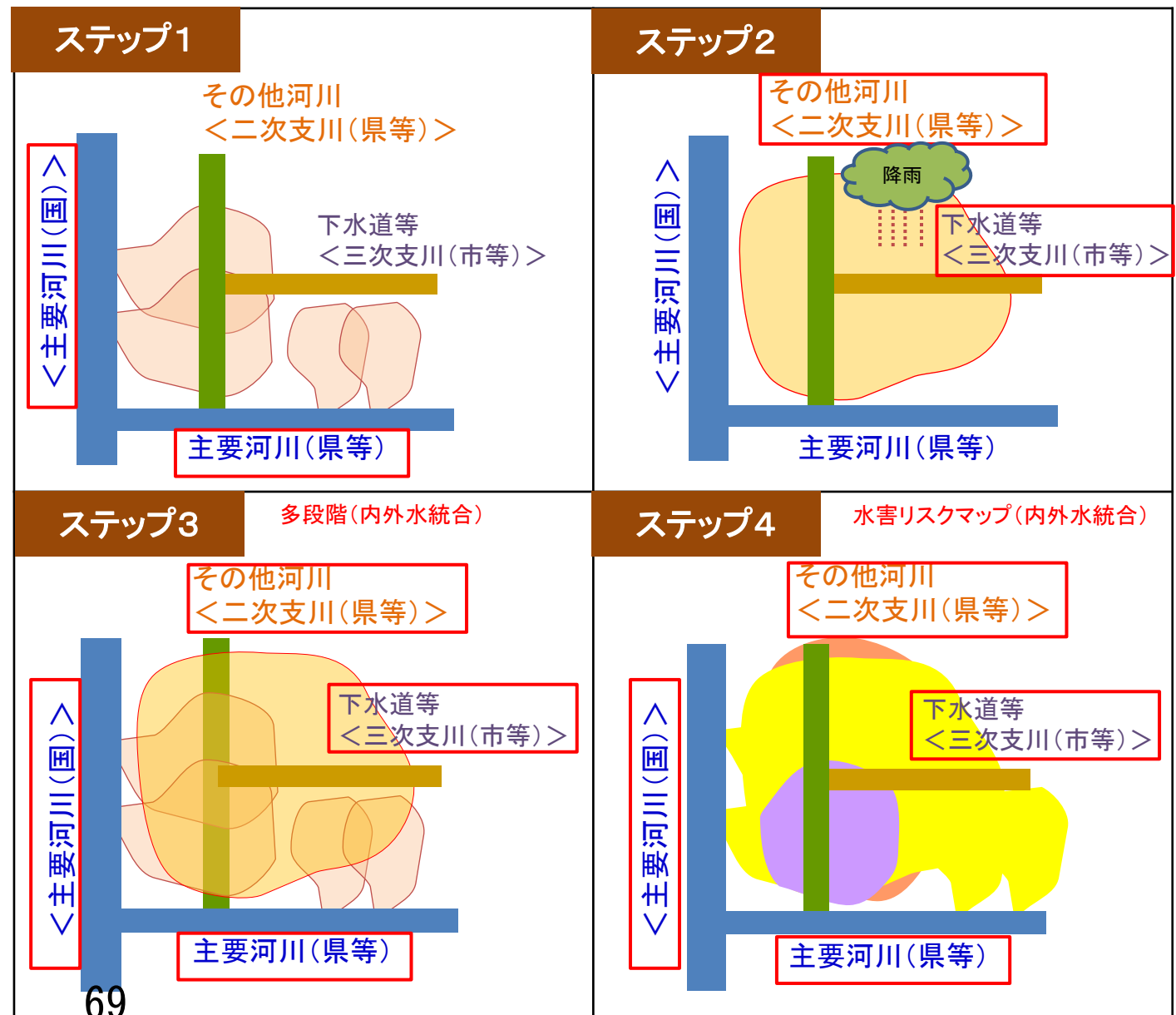
- その他河川、下水道等で1ケース(シナリオ)ずつ複数破堤を想定した浸水解析を実施

ステップ3 内外水の多段階の浸水想定図の作成

- ステップ1、2の解析結果を重ねてメッシュごとの最大浸水深を求める

ステップ4 内外水の水害リスクマップ図の作成

- 浸水あり、浸水深50cm以上、浸水深3m以上の範囲を頻度ごと、浸水の発生が想定される外力規模別に色分けした図を作成



○天竜川上流河川事務所では、天竜川の国管理区間の洪水予報区間を対象に、**洪水浸水想定区域図を公表**していた。
 ○この度、**水害リスク情報の空白域を解消**するため、令和3年の水防法改正により、洪水浸水想定区域の指定対象が**住宅等の防護対象のある全ての一級河川及び二級河川に拡大**した。
 ○これに伴い、天竜川水系**三峰川、小渋川、太田切川**の国管理区間を対象に氾濫した場合に、浸水が想定される区域、想定される推進及び浸水の継続時間を示した「洪水浸水想定区域図」を作成した。

三峰川洪水浸水想定区域図(想定最大規模)

三峰川洪水浸水想定区域図(浸水継続時間)

